

ね

ね

音(名)

根(名)

ね

子(名)

ね

直(名)

ね

嶺(名)

ね

寢(名)

ね

(助動)

ね

ね

ね

ね

ね

ね

舌音にして單子音の一つ。う音に續く時は
 によろゝ發音せらるゝ事多し。

聲。●おさ。●調子。

〔一〕植物の部分の土に埋もれて地中の水分
 を吸收するところ。〔二〕根源。●原因。

十二支の一つ。……ねの時は夜の十二時。

ねの方角は眞北のかた。

價。●價直。

みれに同じ。○「富士の嶺」

寐る事。

〔一〕打消の詞。すの變化。○「久しく見れば」
 「さは思はれど」音にこそ立てれ。〔二〕命令
 の詞。○源氏「はや船出して此浦を去りね」
 このたまへば」

音色(名) 音調の色艶。

寢入(自動四段) 全く眠る。

倭奸(名) 心のねちけて邪なる事。△(形)―

倭奸なる。

倭臣(名) 倭奸なる臣。

ねいじん

ねいす

ねろ

ねはる

ねはつち

ねはらなかつ

ねはん

ねになく

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

ねはる

倭人(名) 倭奸なる人。

倭(自動サ變) 不正の心を以て媚びる。●おも

ねる。

(名) 嶺に同じ。ろは助辭。(萬葉集歌)

粘(自動四段) 糊などのやうにめく／＼として

物に着き易くある。●粘着する。

粘土(名) 粘りたる土。●埴。●へなつち。

●ねんど。

(句) 根腹を立つの意。○中心より怒る。

(曾我)

涅槃(名) 〔一〕梵語にて不生不滅の意。〔二〕常

には釋迦の入滅を云ふ。

音に泣く(句) 聲に出だして泣く。●泣聲立

つる。○古今「音になきぬべき戀もするか

な」

寢惚(自動下二段) れはくに同じ。(雅)

寢坊(名) 寝る事を好む人。●眠むがり。

寢惚(自動下二段) 寝起きて猶寢め切らぬ。

●寝とほける。●ねげける。(雅)

(名) 寢所。(萬葉)

寢鳥(名) 埴にある鳥。

ねり

音取(名)

雅樂の詞。奏樂を始むる前に調子を

合はせ試むる事。

ねど

(名)

「一」寝る床。「二」寝る所。

ねどろ

寢所(名)

寝る所。●聞。●寢間。●寢室。

ねち

熱(名)

れつの雅言。

ねち

螺旋(名)

すべて振ちて差し込み又抜き出すやうになりたるもの。

ねちる

(自動下二段)

おのづから曲りゆがむ。

ねちる

(他動四段)

曲げゆがむ。

ねちく

(自動下二段)

心の曲がりゆがむ。●れちれる。

ねちくる

(他動四段)

振ち廻す。

ねちくび

振首(名)

戰場にて振ち切りて取る首級。

ねちけがまし

(形。形狀言シク活)

れちけたる有様。○源氏「いさくちをしくれちけがましきおほえたになくは」

ねちけびと

倭人(名)

心のれちけたる人。●倭人。○

萬葉「奈良坂のこのてがしほの二おもてさにもかくにもれちけ人の友」

ねり

練(名)

「一」練る事。「二」練絹の略。「三」練貫の略。「四」練り鍛へたる鐵。

ねり

(名)

祭禮のねりものに同じ。

ねりいろ

練色(名)

染色の名。薄黄色。○宇治「白き

狩色に練色の衣」

ねりばかま

練袴(名)

練りたる綾絹にて造れる袴。

ねりべい

練塀(名)

瓦と土にて築き屋根を葺きたる

塀。

ねりぬき

練貫(名)

絹布の一種。縦は生糸横は練糸にて織りたるもの。

ねりかは

練革(名)

いためがばに同じ。

ねりやうかん

練羊羹(名)

菓子の名。寒天と砂糖と小豆にて煉りたる羊羹。

ねりそ

(名)

枯れたる枝などを振ちて繩によりたるもの。○拾遺「つゝの間に裁刈るをのこ繩を無

みれるやねりそのくだけです思ふ」

ねりつば

練鐺(名)

鐺の一種。赤銅四分一等の練物にて造りたる鐺。……鍛製の鐺に對して云ふ。

ねりくら

練鞍(名)

革にて包みたる上に練り物を附けて塗りたる鞍。

ねりやく

練藥(名)

練り合はせたる藥。……丸藥。粉藥。水藥などに對して云ふ。

ねりまたいこん

練馬大根(名)

大根の一種。武州練馬村近傍の名産。

ねりか^う

練香(名) 蜜にて練り合はせたる香。●薰物。
あはせだきもの

ねりざけ

練酒(名) 練りたる酒。甘酒の類。

ねりきぬ

練絹(名) 練りたる絹。●熟絹。

ねりもの

練物(名) 練りて造りたる物。

ねりもの

(名) 祭禮の行列としてねりあるくもの。

ねねなば

根草(名) ぬなばに同じ。尊菜の古名。○拾遺「池水の底にあらでは根草のくる人」と待つ人もなし。

ねる

練・煉(他動四段) 土・薬・麴などをねばへるやうに捏ね交ぜる。●金などを鍛ふ。●絹を灰汁に煮て柔かくする。●革をいためて柔かくする。●すべて練り鍛ふるが如く事業などを磨く。

ねる

(自動四段) 靜にあるく。……祭禮の行列、葬式などの如き歩み方を云ふ。○宇治「笛ふきて行きもやらずねりゆけば」

ねる

(自動下一段) 「(一)麴のもゆる。●醱酵する。(二)麴の生ずる。」

ねを

根緒(名) 三味線の胴につけて絲の端を結び付くる紐。

ねなろし

嶺底(名) 嶺より吹きおろす風。
根緒懸(名) 根緒を懸くる所。胴を貫きて出てたる棒の一端。

ねなかけ

ねおき

寐起(名) 「(一)寐る事と起くる事と。●起き臥し。(二)寐て起くる事。●起き立て。●寐覺。」

ねおびる

(自動下一段) 寐おける。○源氏「宮の迎へにおはしたるをねおびれて思したり」

ねわたし

嶺渡(名) 嶺より嶺に吹き渡る風。○千載「嵐吹く比良の高嶺のねわたしにあはれ時雨る神無月かな」

ねわけ

根分(名) 草の根を分けて別に植ふ替ふる事。

ねがひ

願(名) 願ふ事。●希望。●祈願。●請願。

ねがひのいと

願糸(名) 七月七日の夜。女工の熟達、良縁の配偶などを祈るため七夕に手向くる五色の糸。

ねがひごと

願事(名) 願ひ望む事柄。●希望。

ねがひさげ

願下(名) 一度願ひ出でたる事を取消す。

ねがばね

根姓(名) うばねに同じ。根は尊稱。(續紀宣命)

ねがはくは

(副) 願ふ所は。●望むらくは。

ねがはし

(形。形状言シク活) 願ひ望まるゝ有様。

ねから

(副) 元來。●一向。●更に。(俗)

ねがふ

願(他動四段) 望む。●祈る。●請ふ。

ねがけ

根掛(名) 婦人の髪飾。髻の根に掛くるもの。

ねがへり

寐返(名) 睡眠中に他の方に向き直す事。

ねかす

(他動下二段) 「一」寐さする。「二」立ちてあるものを横にする。

ねかす

(他動四段) 廻をもやす。●醜態さする。

ねよどのかね

(名) 人々に就眠を勧むる鐘の意。◎初夜の鐘。●今の夜十時頃の鐘。○萬葉「皆人をねよこの鐘に打つなれど君をし思へばいれがてぬかし」

ねよつ

子四(名) 子の刻を五つに分けたる其第四。今の夜一時と二時との間頃。

ねた

根太(名) 家の床の下にある横木。

ねたい

寐業(名) 寐る時に身を置く聲。

ねたば

寢又(名) 鈍くなりたる又。

ねたは

妬又(名) 遺恨にて人を殺す又。

ねたる

(他動四段) 強ひて請ひ求むる。

ねさう

年星(名) 陰陽道にて行ふ星の祭。……此道にては其生れ年の干支によりて各人の運命を

ねさう

寝相(名) 寝入りたる人の姿。●寝やう。●寝すがた。

ねさうぞく

寝装束(名) 寐る時の衣服。夜具・寝巻の類。(空穗)

ねたむ

妬(他動四段) 羨ましきあまりに憎む。●猜む。●恨む。●嫉妬する。

ねたん

直段(名) 價。●代價。

ねたまし

妬(形。形状言シク活) 妬むべき有様。

ねたみ

妬(名) 妬む事。●嫉妬。●吝氣。

ねたます

妬(他動四段) 妬ましむる。

ねたし

(形。形状言ク活) くやし。●うれたし。○源氏「かゝるやつれをそれぞ知られぬるがしみじうねたき事かぎりなし」

ねつ

熱(名) 「一」烈しき暖かさ。「二」病にて體熱の平常よりも高まる事。

ねつ

振(他動上二段) 曲げゆがめる。

ねつば

熱望(名) 熱心に希望する事。(△動)熱望す。

ねつたう

熱湯(名) 煮湯。

ねっちゅう

熱中(名) 熱心に希望する事。△(動)―熱中

す。

ねたい

熱帯(名) 地理學上の詞。赤道より南北へ各二

十三度半の間をいふ。

ねつぐ

寐付(自動四段) 寐入る。●熟睡する。

ねつけ

根付(名) 印籠煙草入などの緒に付けて帶に挿

むもの。

ねっけつ

熱血(名) 熱く湧きたる血。

ねっこく

熱國(名) 暑熱の強き國。

ねっき

熱氣(名) 熱の氣。

ねっしん

熱心(名) 其事に精神を専ならしむる事。●執

心。△(動)―熱心す。(形)―熱心なる。(副)

熱心に。

ねつびやう

熱病(名) 病の名。熱氣の高まりて疲勞

甚しき傳染病。……室扶斯の類。

ねっす

熱(他動サ變) 熱を與ふる。

ねっす

熱(自動サ變) 熱氣を發する。

ねなしぐさ

根無草(名) 「一」根の無き草。浮草の類。

「二」根の無き事。●無根の事實。

ねらひ

狙(名) 狙ふ事。●狙ひて目的とする物。

ねらふ

狙(他動四段) 目當を附けて窺ひ見る。

ねん

年(名) さし。

ねん

念(名) 「一」思ひ。●心。「二」丁寧にする事。「三」

僅の時間。●瞬間。

ねむ

合歡木(名) 木の名。ねぶに同じ。

ねむ

(他動下二段) 眠むに同じ。○「ねめつくる」

ねんばい

年輩(名) ・「一」年齢の頃合。●年頃。「二」若

輩。●壯年。

ねんぼ

年甫(名) 手紙の詞。―年始に同じ。

ねんぼろ

年俵(名) 一年の俵給。●年給。

ねんど

年度(名) 會計事務などにていふ一年の句切

り。

ねんど

粘土(名) 粘り氣の強き土。●ねばつち。●へ

なつち。●埴。

ねんちく

粘着(名) 粘り着く事。△(動)―粘着す。

ねんぢう

年中(副) 一月より十二月まで始終。

ねむり

眠。睡(名) 眠る事。●睡眠。

ねんりき

念慮(名) 念に同じ。●思慮。

ねんりき

念力(名) 執念の力。

ねむる

眠。睡(自動四段) 寝て身心の感覺を失ふ。●睡

入る。

ねんが

年賀(名) 「一」老年の後に行ふ定期の祝。六十

の賀、八十の賀などの類。「二」年始の祝儀。

●賀正。●年頭。

ねんだい

年代(名) 歴來りたる時代。

ねんだいき

年代記(名) 年々起りたる國家の出來事を記したる書物。

ねむたし

(形。形狀言ク活) 睡りたし。●ねむし。●ねぶたし。

ねんれい

年禮(名) 年始の祝儀を述ぶる事。●年賀。

ねんれい

年齢(名) 生れてより現在までの年數。●齡。

ねんさう

年星(名) ねさうに同じ。

ねんない

年内(名) 其年の内。

ねんないりしん

年内立春(名) 大陰曆にて十二月の内

内に立春節の來る事。

ねんなう

(副) 殊の外。●存外。●意外に。○狂言

「ねんたう早まつたし」

ねんらい

年來(副) 久しき以前より。●數年來。

ねんぐ

年貢(名) 年々朝廷に納むる貢米。

ねんぐい

年回(名) 年忌に同じ。

ねんぐん

念願(名) 願ふ所。●希望。●祈請。

ねんまつ

年末(名) 年の末。●歲暮。

ねむけ

眠氣(名) 睡りたき氣持。

ねんげつ

年月(名) としつき。

ねんげん

年限(名) 幾年と定めたる期限。

ねんぶ

年賦(名) 年毎に割り付けて納むる金。

ねんぶつ

念佛(名) 阿彌陀佛の名を稱ふる事。●稱號。

●稱名。

ねんぶつしゅう

念佛宗(名) 融通念佛宗の略。

ねんごろ

●丁寧。●深切。●磨勤。△(形)―懇

なる(副)―懇に。

ねんこう

年功(名) 多年の功勞。

ねんがう

年號(名) 日本支那にて朝廷より制定せられ

たる年の稱へ。明治、天保の類。

ねんえき

粘液(名) 粘りたる液汁。

ねんさい

年祭(名) 神道にて定期の年數に行ふ死者の

祭。一年祭、五年祭、十年祭の類。

ねんき

年紀(名) 年代に同じ。

ねんき

年季(名) 雇人の奉公する期限。

ねんき

年忌(名) 佛法にて定期の年數に行ふ死者の

祭。すなはち一周忌、三回忌、七回忌、十三

回忌の類。●年回、

年魚(名) 「一」一年きりにて生死する魚。「二」

結の異名。

ねんきやう 年行(名) 山伏の多年に積みたる苦行。

ねんぎやうじ 年行事(名) 年々交代する世話人。

ねんきん 年金(名) 年々に出だす金。又は得る金。

ねんきふ 年給(名) 一年の給金。●年俸。

ねんし 年始(名) 「一」年の始。「二」年始の祝儀。●年頭。●年賀。●年禮。

ねむし (形。形狀言ク活) 睡りたし。●ねむたし。

ねんせう 年少(名) 年の若き事。●年の若き人。

ねんじゆ 念珠(名) 數珠に同じ。

ねんじゆ 念誦(名) 念佛誦經する事。△(動)―念誦す。

ねんじゆひき 念誦(名) 念珠を造る工人。(職人盡歌合)

ねんず 念誦(名) ねんじゆに同じ。

ねんず 念(他動サ變) 「一」祈る。●祈念する。○源氏

「清水の觀世音を念じ奉りて」「二」こらへ

る。●がまんする。○源氏「つらき事あり

こも念じて」

ねうち 直打(名) 價。●價值。

ねのほし 子星(名) 子の方角にある星。北極星の一名。

ねのどき 子時(名) 今の夜十二時。

ねのくに 根國(名) 夜見の國に同じ。●幽界。

ねのこく 子刻(名) 今の夜十二時。

ねのひ 子の日(名) 「一」正月初子の日。此日には人々

野に出て、小松を引き千代を祝ふを以て中

古の風俗とせり。「二」子の日の野遊び。○拾

遺「子の日する野邊に小松のなかりせば千

代のためしに何を引かまし」「三」子の日に

引く松。○新古今「さゝ波や志賀の濱松ふ

りにけりたが世に引ける子の日なるらん」

ねのひづき 子日月(名) 正月の異名。

ねぐ (他動四段) 「一」願ふ。「二」祈る。「三」ねきらふ。

●慰勞する。(萬葉)「四」教訓する。(記)

ねぐるし 寐苦(形。形狀言シク活) 苦しくて寐られぬ

有様。

ねぐん 寐棺(名) 棺の一種。屍體を横に臥したるまゝ

入るゝ様に造りたるもの。

ねくたる (自動下二段) 寐て起きたる後。姿の亂れて

ある。○蜻蛉「十よ日ばかりにて人ねくた

れたるほど」

ねくたれ (名) ねくたれたる事。○枕「ねくたれの朝

顔」濱松「ねくたれの髪」

ねくたれがみ (名) 寐て亂れたる髪。○大和「我妹す

がねくたれ髪を猿澤の池の玉藻と見るぞか

なしき

ねぐら

塙(名) 鳥の寐る所。

ねくび

寐首(名) 寐たる儘斬り取る首。

ねや

聞(名) ふしど。●寝所。●寝間。●寢室。

ねやど

聞處(名) 聞に同じ。(萬葉)

ねやはらこすげ

根和小菅(名) 水に打たれて根の和ら

かになりたる菅。(萬葉)

ねやま

寢山(名) 夜寢たる山。樵夫獵師などにいふ。

(夫木)

ねやす

(他動四段) 粘るやうに練る。

ねま

寢間(名) 寢所。●聞。●寢室。

ねまどひ

寢惑(名) 寝はけてさまどひする事。○枕、老

いたる男のねまどひしたる」

ねまち

寢待(名) 「一」寐て待つ事。「二」寢待の月に同

じ。

ねまぢのつき

寢待月(名) 太陰曆二十日の夜の月。○

續古今「さもこそは寢待の月の頃ならめ出

でもやられぬ雲の上かな」

ねまつり

子祭(名) 大黒天の祭。十月甲子の日に行ふ

もの。

ねまき

寢卷(名) 寢る時に着る衣服。

ねぶ

合歡木(名)

木の名。葉は槐に似て夕になれば閉

づるもの。故に眠るの意にて此名あり。花

は上白く下薄紅にて薊の形したるが夏の半

に咲く。

ねぶ

(自動上二段)

年のふける。●長じて形の調ひゆ

く。●老人めく。○源氏「御年よりはこま

なうれびさせ給ひて」同「いさまばゆきま

でれびゆく人の形かな」同「聲いたうれび

たれば」

ねぶど

根太(名)

腫物の名。大きな根を持ちて潰る

れば治するもの。

ねぶり

眠(名)

ねむりに同じ。

ねぶる

舐(他動四段)

舌の先にて嘗め味ふ。

ねぶる

眠(自動四段)

ねむるに同じ。

ねぶかはいし

根府川石(名)

相州根府川より産する石

材。青くして石碑などにするもの。

ねぶたし

(形。形状言ク活)

ねむたしに同じ。

ねぶつ

念佛(名)

ねんぶつに同じ。

ねこ

猫(名)

獸の名。人家に畜はれて鼠をよく捕ふる

もの。

ねころもり

根来塗(名)

漆器の名。鎌倉時代に紀州根

來寺より出だししもの。

ねごど

寐言(名) 眠りたる人の言ふ言語。●寐言に似

て譯の分らぬ言語。

ねこがき

猫搔(名) 藥にて造りたる敷物。つぐらに

同じ。

ねこだ

(名) ねこかきつぐらに同じ。

ねこま

(名) 「一」猫の古名。(和名抄)「二」猫膜に同じ。

ねこまた

猫膜(名) 猫の年數を経て人に化け又は人を

食ひなごするもの。

ねごゑ

寐聲(名) 半ば眠りたる聲。●寐だけ聲。

ねごめ

(前) 根と共に。●根も一つに。○源氏「袖ふ

れし梅はかばらぬにほひにて根ごめうつる

ふ宿や異なる」(又)「ねごめに。○後撰「垣

ごしに散りくる花を見るよりは根ごめに月

の吹きもこさなん」

ねこじ

根堀(名) 根堀にする事。●根堀にしたる草木。

ねこず

根堀(他動上二段) 草木を根の儲堀り取る。○

拾遺「いにし年根こじて植ふし我宿の若木

の梅は花さきにけり」

ねあはせ

根合(名) 五月五日菖蒲の根に歌を添へて

左右優劣を戦はす一種の雅遊。歌合の種類。

ねあがりまつ

根上松(名) 根の地上に現はれたる松。

ねあけ

直上(名) 直段を上ぐる事。

ねあせ

寐汗(名) 病氣などにて睡眠中に出づる汗。

ねさむ

寐覺(自動下二段) 眠の覺むる。

ねさけ

寐酒(名) 夜寐る前に飲む酒。

ねさめ

寐覺(名) 寢覺むる事。

ねさめつき

寐覺月(名) 陰曆九月の異名。○夜長くて

寐覺がちなる時なれば云ふ。

ねさし

根差(名) 根さす事。

ねさす

根差(自動四段) 「一」根の差し出づる。「二」事

の起りとなる。●原因する。

ねさ

葱(名) 野菜の名。根の白き處を賞翫して食用さ

するもの。

ねき

禰宜(名) 神主の下役。●神官。

ねきる

直切(他動四段) 直段を安くせよと諫する。

ねくら

勞。●慰勞する。「二」慰勞の爲に馳走す

る。

ねきし

(名) 願ひ事。●祈願。

ねめかく

根岸(名) 山の麓の土地。

(他動下二段) ねめつくに同じ。(宇治)

ねめつく

(他動下二段)

にらみつく。

ねみだれがみ

寐亂髪(名)

寐て亂れたる髪。

ねみみ

寐耳(名)

寐て居る時の耳。

ねじろ

根城(名)

本城。●根據の城。

ねじろ

根白(名)

水邊の植物の水に洗はれて根の白く出でたるもの。○萬葉「根白高堂」謡曲「根

白の柳」

ねじろぐさ

根白草(名)

芹の異名。

ねじめ

根締(名)

活花にて主たる花の下に小枝など挿し添ふる事。

ねじめ

音締(名)

三味線の糸巻を締めて出だす一種の音調。

ねひどつ

子一(名)

子の刻を五つに分ちたる其第一刻。今の夜十二時頃。

ねびる

根蒜(名)

草の名。蒜に同じ。

ねびる

(自動下二段)

年ふける。○源氏「ねびれて」

ねびえ

寐冷(名)

睡眠中に身體の冷ゆる事。

ねびき

根引(名)

根と共に草木を引抜く事。

ねびびど

(名)

年ふけたる人。●こしま。(源氏)

ねものがたり

寝物語(名)

寐ながらにする物語。●寐

ねもころ

鰐(副)

話し。

ねんごろに同じ。○萬葉「蛙なく六田の川の川柳のねもころ見れどあかぬ君かな」(又)「ねもころに。○萬葉「ねもころにな戀ひそよまが夢に見えつる」

ねもころに

(副)

ねんごろに。○萬葉「高山の巖に生ふる菅の根のねもころに降り置く白雪」

ねせり

根芹(名)

芹に同じ。●根を賞味する故。

ねすばん

不寐番(名)

夜中寐ずに番する事。又は其人。

ねすばしり

●夜番。

ねすりのころも

鼠走(名)

こゝみを見よ。

根摺衣(名) 紫などの如き色ある草の根を摺り附けて染めたる衣。○和泉式部集「色に出で、人に語るな紫のねすりの衣きて寐たりきと」

ねすなき

鼠啼(名)

ねすみなきに同じ。(枕)

ねすみ

鼠(名)

「一」小獸の名。家の天井などに住みて器物書籍など噛みて惡戯をするもの。「二」

鼠色の畧。

ねすみいろ

鼠色(名)

鼠の毛に似たる色。

ねすみなき

鼠啼(名) 鼠に似たる啼聲。●鼠の啼聲に似て口にてチウ／＼音をさする事。

